

安彦良和第一回監督作品

# CRUISER JOE クラッシュジョウ

原作・脚本 高千穂遙 / 監督・脚本・作画 安彦良和

製作 岸本吉功・伊藤昌典 / 美術 中村光毅 / 撮影 三沢勝治 / 音響 藤野貞義・千葉耕市 / 演出 橋島典夫 / 音楽 前田憲男 / プロデューサー 吉井孝幸  
声優 ショウ=竹村 拓 アルフィン=佐々木るん / 吹き替え 小原乃梨子 / タロス=小林清志 / 企画・製作・日本サンライズ / 配給・富士映画

原作 朝日ソノシヅ刊 サントラ盤レコード

83型、最先鋭コスミック・アドベンチャー

# 宇宙が熱い!

# スペース・アニメーション新時代へ! '83型最先鋭ゴズミックグアドベンチャー 「クラッシュジョウ」である。

「機動戦士ガンダム」と「伝説巨神イデオン」で日本全国を沸かした日本サンライズによる新たな挑戦。それがこの「クラッシュジョウ」である。

今回は、TVアニメの延長に近かつた従来の劇場アニメとは、はつきり一線を画し、書き下し脚本による完全オリジナル作品である。そして、安彦良和が監督、キャラクター・デザイン、アニメーション・ディレクターの三役を兼ねることにより、隅々まで行き届いた気くばりが可能となった。さらに、一年以上もの準備期間で美術及びメカ設定を完璧にするなど、あらゆる点でこれまでのアニメから一歩抜きん出た作品である。

原作は高千穂遙。この「クラッシュジョウ」シリーズは朝日ソノラマから、すでに6巻まで刊行されており、トータルで180万部に達する、朝日ソノラマ文庫のドル箱である。ちなみに、同文庫のベストセラー・チャートの10位までに6巻全部が入るといふ快挙をおさめている。加えて、アニメ専門誌、東映動画ファン・クラブなどのアンケートによる「アニメ化希望小説のナンバー1」であり、「期待度」でも断トツのナンバー1である。

監督の安彦良和は、「機動戦士ガンダム」のキャラクター・デザインとアニメーション・ディレクターで、トータルな意味での演出は今度が初めてである。それは、安彦良和の卓越した作画技術、オリジナリティ溢れるアニメ感覚、演出センスを最大限に発揮するための必然的な製作体制であり、映画の統一性と高い完成度を約束するものである。

物語は、2160年代の銀河宇宙。宇宙航路の整備、惑星改造、宇宙船の護衛、重要物の輸送などを生業とするクラッシュジョウと呼ばれる人々と、その中でもヒカールの腕をもつジョウと彼のチームメイト(アルフィン、タロス、リッキー)の活躍を描く、単純明快、理屈抜きのエンタテインメント。'83型、最先鋭ゴズミックグアドベンチャーである。

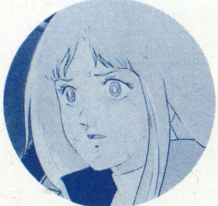
(上映時間2時間10分)

# クラッシュジョウ

原作・脚本 高千穂遙/監督・脚本・作画 安彦良和  
製作 岸本吉功・伊藤昌典/美術 中村光毅/撮影 三沢勝治/音響 藤野貞義・千葉耕市  
演出 鹿島典夫/音楽 前田憲男/プロデューサー 吉井孝幸 <朝日ソノラマ刊・セントラル盤ビクターレコード> ※情報電話 03(540)1000



**ジョウ JOE (竹村拓)**  
西暦2142年、おおいぬ座宙域、トールの第4惑星アラミス生れ。両親はダンとユリア。10歳の時に父、クラッシュ・ダンの後を継いでクラッシュ・ジョウになる。クラッシュ・ジョウチームのリーダー。身長180cm、体重75kg。人種は主としてモンゴリア系。19歳。



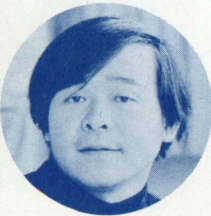
**アルフィン ALFIN (佐々木るん)**  
2144年、はくちょう座宙域、ビザンのアルピザン生れ。連帯惑星ビザンの王女。〈ミネルバ〉に密航してクラッシュ・ジョウになる。ビザンの事件で死亡したガンビーノの替わりにチームの航法士となる。身長163cm、体重48kg。人種は主としてノルディン系。17歳。クラッシュ・ジョウ歴1年。両親はハルマン三世とエリアナ。



**リッキー RICKY (小原乃梨子)**  
2146年、やぎ座宙域、ローデス生れ。ローデスの浮浪児出身で、かつばらいに失敗してギャングに殺されるところをジョウたちに助けられた。その後〈ミネルバ〉に密航してクラッシュ・ジョウになる。機関士。身長140cm、体重36kg。人種はアルピニン系。15歳。クラッシュ・ジョウ歴3年。両親は不明。



**タロス TALOS (小林清志)**  
2109年地球生れ。クラッシュ・ダンと組んでいたが、ダンが引退する際に頼まれ、ジョウの補佐役を兼ねて〈ミネルバ〉に乗り組んだ。操縦士。全身の8割がサイボーグ化され、左腕のロボット義手には機関銃がしこんである。身長209cm、体重132kg。人種は主としてオイロピアン系。52歳。クラッシュ・ジョウ歴40年。両親については語らず。



やすひこ よしかず  
安彦 良和  
<監督・脚本・作画>



たかちろ はるか  
高千穂 遙  
<原作・脚本>

●アニメーションはもう市民権を得たと最近ではよく言われます。でも本当にそうでしょうか。  
世間一般の見る所ではアニメ映画はまだ「お子様ランチ」であり、盆・正月の客寄せイベントでしかないように思われます。「クラッシュジョウ」はそうした中で一つの挑戦的・試行的な作品として製作されます。

●「クラッシュジョウ」という作品は安彦良和さんのキャラクターがあつて初めて書くことができたといつても過言ではありません。それゆえに安彦さんの作画と監督で「クラッシュジョウ」がアニメ映画化されると決まったとき、ほくは諸手を挙げて快哉を叫びました。まさに理想のアニメ化です。主人公のアクションに、いきいきとしたアニメテイピングに胸おどらせていただければ幸いです。

3月12日(土)の春休み全国一斉ロードショー!